

'97新春座談会



年の改まった平成9年は、留萌市が開基120年、市制施行50年、開港60年を迎える記念の年です。留萌市の新しい第4次総合計画が4月からスタートします。そして今年、歴史をふりかえりながら次の時代の留萌市の方向、あらたな発想のまちづくりについて市長と留萌青年会議所の皆さんに語っていただきました。

出席者
留萌市長 長 沼 憲 彦
1997年青年会議所
理事長 鉢 呂 良 一 さん
直前理事長 高 橋 龍 也 さん
副理事長 柳 沢 豊 さん
副理事長 野 口 克 彦 さん
政策室長 吉 田 昭 平 さん
(敬称は略させていただきます)

アンケートの実施など、多くの市民の参加と意見をいただきながら計画づくりに取り組んで来ました。

10年間の長期の総合計画であり、変化の激しい社会情勢の中では、大変難しい問題が多いのですが、知恵を出し合って進めていきたいと思えます。新年を迎え、あたらしい時代に何を期待するかまず皆さんのお話を聞かせてください。

高橋 青年会議所の活動自体がまちづくりを考えながらすすめています。最近では経済情勢が厳しく過疎化が進んでいます。わたしたちができることは何か、将来子どもたちに、どういう魅力あるまちをわたせるか考えていきたい。
市長 そうですね。そこから始まりますね。

市長 あけましておめでとうございませう。皆さまには日頃からまちづくりにご協力いただき感謝しております。

今年から留萌市は第4次長期総合計画をスタートさせますが、まちづくり市民会議や2,000人

高橋 高齢化時代の医療や福祉、文化的なまちづくり、生活の利便性、下水道などの環境整備が大きなポイントになるでしょう。

柳 沢 先程市長の10年間の間でいろいろな施設ができ変わりがつあります。これからは市民一人一人がまちづくりについて考えるべきだと思います。青年会議所も今年には環境面、産業面での企画提案を考えています。

市長 環境面でのおもな取り組みは？

鉢 呂 今考えているものは、ごみ問題、市内の緑化、高齢者の福祉などについて考えたい。

市長 これまで、まちづくりと一言とハード面が中心だったからいがあったが、これからはどういうシステムで住みやすいまちにするかソフト面の充実が必要になってきますね。

吉 田 私は、今年、北海道地区協に出向します。提唱している「小さなデモクラシー運動」を十分学んできた。

市長 水産関係はいかがですか。
吉 田 現状は、5年、10年というよりも1年1年が厳しい。その中でどう生き残っていくか、多種多様なものにチャレンジしてい

くことが必要です。

一次産業の振興は難しく、どう対応していくか日々勉強です。

市長 一次産業は留萌の歴史とともにある大事な産業です。資源の減少で苦しい漁業は、増殖、放流に取り組んでいかなければならないと思っています。また、農業は、米の生産調整で厳しい状況です。今後、新しい作物を取り入れるなどの工夫が必要ですね。

野 口 過疎が大きな問題となっていますが、出先機関の単身赴任の家庭の皆さんが留萌に遊びに来れるような、海の資源をいかしたものを考えたい。

市長は懇談会などで管内を考えたい施設づくりと言っているが、たとえばどういうものでしょうか。
市長 魅力あるまちづくりというものを考えるときまず景観とおいしい食べ物、それに買物。

最近ではこれに「遊び」が加わっていますね。管内の町村を見るときいろいろな施設づくりに努力していますが、どうも全体的に知名度がいま一つです。そこで留萌に來られた方々に総合的な情報提供のできる施設が必要と考えています。過疎という前に、どういうまちづくりをするのか考え、努力していかなければなりません。

高橋 昨年、40周年記念事業として、留萌の浜のすばらしさのPRということで、ビーチバレーボール大会を開催しました。マリンスポーツを中心とした観光事業を定着したいと考えています。そして大切なのは継続です。背後の浜中運動公園、千望台、礼受牧場、そしてCCZとからめていけば、環境的には申し分ないと思う。

市長 青年会議所にはまちおこしなどに努力していただいております。たいへん心強い。留萌のまちは海をどう活用していくかだと思われ、努力の積み重ねが必要ですね。

**留萌のまちを
どのようなまちに**

鉢 呂 一言で言いますと安心して暮らせるまちづくりをすすめます。経済基盤の安定、健康的にも安心して住んでもらえるまち。

昨年までは観光、施設などの活動が主体でしたが今年には環境、福祉など他都市と比べて遅れているソフト面を勉強し、提言などしていきたい。

市長 そうですね。留萌に移り住んでもらいたいということになるとそのための条件が必要となってきます。